

## ⑫ 公開特許公報 (A)

昭57—64089

⑤ Int. Cl.<sup>3</sup>  
D 05 B 73/00

識別記号

庁内整理番号  
7633—4 L

④ 公開 昭和57年(1982)4月17日

発明の数 2  
審査請求 未請求

(全 3 頁)

## ⑤ ミシンのフレーム

① 特 願 昭55—137984  
 ② 出 願 昭55(1980)10月1日  
 ③ 発 明 者 片野坂俊一  
 知立市牛田町尼子田10番地35  
 ④ 発 明 者 小沢光弘

⑤ 発 明 者 碧南市久沓町4丁目86番地  
 大平淳夫  
 豊田市中根町西山8番地109  
 ⑥ 発 明 者 小池錬治  
 豊田市野口町阿瀬房285番地  
 ⑦ 出 願 人 アイシン精機株式会社  
 刈谷市朝日町2丁目1番地

## 明 細 書

## 1. 発明の名称

ミシンのフレーム

## 2. 特許請求の範囲

- (1) 前方向又は後方向を開口するように成型した機枠を前方向および後方向から樹脂製カバーでもつて包囲してなるミシンのフレーム。  
 (2) 前方向又は後方向を開口するように成型した機枠を前方向および後方向から樹脂製カバーでもつて包囲すると共に、前記機枠と前記樹脂製カバーとの間に緩衝部材を介装させてなるミシンのフレーム。

## 3. 発明の詳細な説明

本発明は、ミシンのフレームに関するものである。

従来のミシンのフレームは、鋳物又はアルミダイキャストで成型していたが、鋳造、機械加工および塗装等の製作工程が多く、コスト高となっていた。

本発明の目的は、かかる不具合が生じないミ

シンのフレームを提供することにある、その主旨とするところは、前方向又は後方向を開口するように成型した機枠を樹脂製カバーでもつて包囲したミシンのフレームを提供することにある。

以下、本発明の一実施例を添付図面に基づいて説明する。第1図ないし第4図に於て、ミシンのフレーム10は、ベース11と、機枠12と、後カバー13と、前カバー14とからなっている。しかし、後カバー13および前カバー14は樹脂成型してなるものであり、機枠12は鋼板をプレス加工してなるものである。

機枠12は前方向が開口されており、この開口部から適宜分割されたマシン機構すなわち、上軸機構15、下軸機構16、針棒駆動機構17、送り調節機構18、モータ19を収めこみ、しかるのちメタル部材20・21・22およびベルト24等を介してそれらを組み付けることができる。そして、機枠12にマシン機構が組み込まれると、機枠12を前後方向か

ら前カバー 14 および後カバー 13 でもつて包囲し、次にベース 11 を取り付けるとフレーム 10 が完成する。

尚、開口部は機枠 12 の後方に形成するようにしてもよい。又、機枠 12 の剛性を高めるように、機枠 12 と後カバー 13 との間に緩衝部材 25 を介装されており、緩衝部材 25 は硬化剤で固められた発泡性樹脂である。

以上述べたように本発明は、前方向又は後方向を開口するように成型した機枠を前方向および後方向から樹脂製カバーでもつて包囲して、ミシンのフレームを構成したので、従来のように機械加工や塗装工程を必要とせず、更に機枠と樹脂製カバーとの間に緩衝部材を設けたので機枠の剛性を高め且つモータ音の吸収でき、多大の効果を奏する。

#### 4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本発明に係るミシンのフレームの一実施例の分解図、第 2 図はミシン機構の分解図、第 3 図は機枠にミシン機構が組み付けられた

状態を示す図、第 4 図はミシンフレームの断面を示す図である。

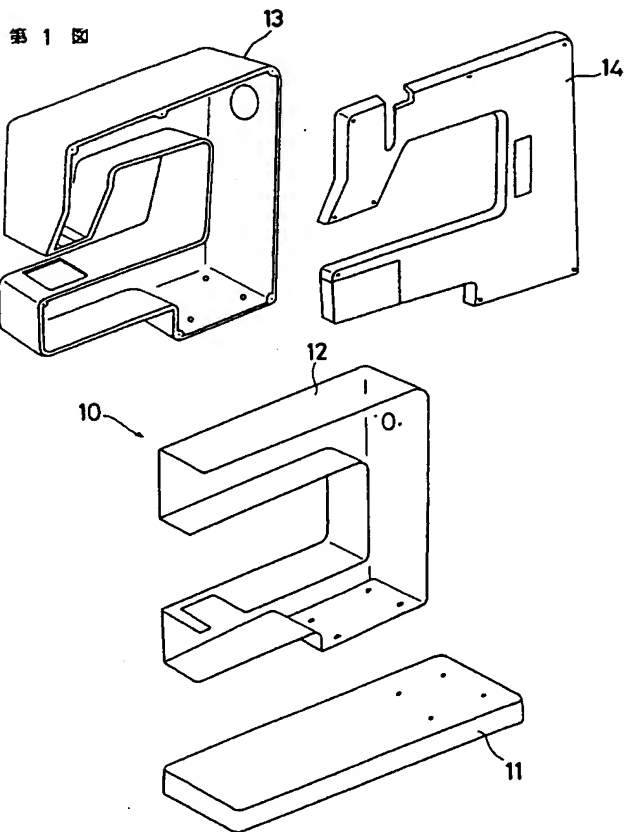
11 : 機枠、13・14 : 樹脂製カバー、  
25 : 緩衝部材。

特許出願人

アイシン精機株式会社

代表者 中 井 令 夫

(3)



(4)

